

SuBACo だより

2024
11月号

まちなか集客施設
SuBACo

東1条南1丁目1番23号
0125-74-4885
午前9時～午後4時
休館日 土日祝
12月28日～1月4日
(その他不定休)

企画・編集
砂川市役所
商工労働観光課
地域おこし協力隊
篠原由衣・中野有菜

今月のひと皿

おむすび満
きまぐれおむすび（じゃこ）
どて焼き・おかずセット



- 人気のおむすびベスト5-
- 1位 しゃけ
 - 2位 豚角煮
 - 3位 塩むすび
 - 4位 ポークたまご
 - 5位 焼たらこ

「今月のおむすび」「きまぐれおむすび」
毎月いろいろな味が楽しめます。
11月のおむすびは「めはり」



公民館2階にて、郷土資料室 特別展「砂川のお店展」が開催されました。砂川の商業の発展についての歴史や、当時のお店で使われていた道具や商品の展示・写真のスライド上映等が行われています。郷土研究会の方が3年かけて制作した大作、〈商店街の変遷経過の年表地図〉は昭和五年から平成二十六年までの街並みの変遷がひと目でわかるようになっていきます。伊豫田菓子店、ナカヤ菓子店、お菓子のほんだの昔の商品パッケージや、当時のチラシの原本など普段なかなか見ることのできないものも、スイトロードの歴史に触れたり、新たな発見もあると思います。



特別展終了後も3階・郷土資料室へどうぞ

10月で5年目を迎えたおむすび満さん。地域おこし協力隊を経て開業された、大先輩のお店です。砂川産のゆめびりかを使用し、萬古焼の土鍋で炊いたおむすびが常時十七種類ほど、お弁当やおかずも並びます。手づくりの唐揚げ・だし巻き卵・コロツケに、タコさんウィンナー。どれもほっとする美味しさです。年中味わえるどて焼きは、おむすびに合うようにとスープが多めの、味噌汁仕立て。

その季節の旬の具材も楽しみのひとつ。9月から新米・塩むすびは通常の5〜6倍売れるそう。先月の砂川産の栗のおむすびも絶品でした。「おこげできたで」のPOPもお見逃しなく。

おむすび満の みつるくんあれこれ

このキャラクターを見たらあのお店だ！と分かる方も多いのでは。季節によって七変化するおむすび、その名も『みつるくん』

毎月のカレンダーでは、その季節を纏ったみつるくんが登場。今年は頭にのっけシリーズ、去年は包まれたシリーズと、ユーモアに溢れた姿がなんとも可愛いのです。店内では、こどもたちが描いたイラストや、紙粘土・フェルトで作られた様々なみつるくんが出迎えてくれます。LINEスタンプも販売していますよ。

周年を迎えた際に毎年プレゼントしている、みつるくんクッキーは、今年で5回目。こちらは砂川のカフェエコーンさんが作られています。年に一度の甘いみつるくんです。様々なみつるくんを通して、満さんが地域の人に愛されているのだなあと感じました。



おむすび満

〒073-0131
砂川市東1条南1丁目1の20 A1A11階
080-4244-6651
10時〜17時（なくなり次第終了）月火金定休

記事 中野のおむすびベスト3は、ぬかにしん・朝削りおか・たぬきです。（中野）
編集 篠原のおむすびベスト3は、焼たらこ・そばろ・鮭たまです。どて焼きも大好き！（篠原）



すながわのおみせ

曾我茶舗

vol.08

空知管内でも貴重な 歴史の長いお茶屋さん



曾我さんご夫婦。お二人とも楽しいお話をたくさんしてくれました。

市内の十字街にお店を構える『曾我茶舗』さん。曾我治彦さんと奥様のお二人で切り盛りしています。

お店の歴史は古く、明治40年に曾我さんのおじい様が愛媛県から移住し、石狩川付近にあった栄町という地区で『曾我商店』の名前でお店を始めました。その時はお茶ではなく雑穀や木材の販売をしていたそうです。大正10年に現在の砂川観光協会がある場所へと移転し、当時では数少ない車に乗って運送業もされていました。ただ、いつからお茶を取り扱い始めたのか、その経緯などはわからないそうです。



曾我茶舗となった頃には市内にお茶屋さん以外にも2店舗あり、曾我茶舗が一番小さなお店だったようですが、現在も続く唯一のお店となりました。空知管内でもお茶屋さんには1、2店舗しかなく、貴重な存在となっています。そのため、お茶好きの方や、来客用や贈り物用のお茶を求める方が、インターネットの検索や、人づてに聞くことで、滝川や栗山、岩見沢などからいらつしやいます。



昔のお店はお茶のスペースはほんの少いで瀬戸物が主体でした。その時代、贈答品に食料品などの消えるものを贈るべきではないとされており、食器などを贈る方が多かったです。特に3月末から4月にかけては入学・進学のお祝い返しで、また年末も年越し前に食器を新調する人たちが忙しかったそうです。

近くにスーパーができると、瀬戸物を購入する人が少なくなり、現在の場所に引越す際に瀬戸物の在庫を大幅に減らしました。そこからはお茶の販売をメインにしています。

お茶の仕入れは70年以上取引のある問屋さんからで、曾我さん自身が好きな問屋さんのため、取引を続けているそうです。瀬戸物も好みで仕入れており、急須などは60年以上の取引がある、三重県四日市市の萬古焼の問屋さんから買付けましたが、廃業することになってしまいました。

「高齢化などによって廃業する地方の小売店が多くなるから、問屋も減っていく。小売店がなくなるのが先」と曾我さんは言います。

廃業する小売店が多くなる中で、各地から来るお客さんから「長く続けてほしい」と言ってもらえているので、細く長くやっていきたいと曾我さんご夫婦は話してくれました。

曾我茶舗

〒073-0161

砂川市西1条北1丁目1の1

0125(52)2036

9時〜18時30分

年中無休